



“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2005 4 No.641

発行日 2005年（平成17年）4月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyoo/>
編集発行人 米倉孝治
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「信頼関係が大切」錠内友重さんは作業療法士として、介護老人保健施設ソフィア横浜で機能訓練と生活全般のリハビリを担当している。リハビリはこうやれば治るというマニュアルはなく、一人ひとりの精神面を大切に信頼関係を築く中で、その人にあった方法を考えていくことが大切だという。「最近お年寄りの方の長い経験をすごく大事にしてあげたいと思う。その人の生活歴を考えるようになりました」と話す錠内さんの原動力は、「リハビリを受ける方のちょっとした笑顔」だという。（写真・文 菊地信夫）

新しい年度が始まり、全国的に開花が遅れていた今年の桜も葉が目立つようになってきました。四月は、大きな可能性を秘めた若者たちが夢と希望と不安を胸に、社会に飛び立って行く季節でもあります。

平成十七年度は、県社協にとって大変重要な年であります。社会福祉協議会は社会福祉法において、地域福祉推進の中核的組織に規定され、活動のより一層の充実強化を期待されております。県社協活動推進計画五カ年の最終年度を迎え、現在、本会職員が全員参加して、忙しい業務の傍ら日頃の事業執行を通して、明らかにした課題の整理や検討を進めています。そして、県民の皆様の期待に十分応えることができるよう、地域福祉推進における今後の県社協の役割、それに伴う活動、組織のあり方をその計画の中で明確にしていくこととなります。新計画は、全職員のエネルギーを結集し、夢と希望を持って取り組むことができる計画を目指しております。

来年度の桜の花が咲く頃には、新しい組織のもと充実した事業、活動がスタートしていることと思いますので、会員、県民の方々の更なるご協力、ご支援をお願いいたします。

県社協事務局長 米倉 孝治

目次.....CONTENTS

平成17年度県社協事業計画・予算.....	2・3
県福祉部・衛生部が「保健福祉部」になりました	4
平成17年度人材研修センター研修年間計画.....	5
商品力を高めてイメージ戦略.....	6
長寿社会開発センターいきいきはつらつ.....	7
連載・サービスを生む・育てる(1).....	10・11

地域福祉の一層の推進に向けて

～平成17年度県社協事業計画・予算～

去る3月30日に開催した評議員会で、平成17年度の本会事業計画・予算が決定しました。

「新 神奈川県社会福祉協議会活動推進計画」の最終年次を迎えるにあたり、17年度は計画事業の総仕上げとして、セルフヘルプ活動の促進やともしび運動の推進等、市民参加の一層の促進に取り組みま

す。また、福祉サービスの質の向上を目的とする福祉サービスの第三者評価事業の促進や災害時における福祉救援のあり方の検討等、計画期間内に蓄積した成果を踏まえながら、新たなニーズを見据えた事業展開を進めるとともに、平成18年度を初年度とする次期活動推進計画の策定に取り組みます。

多様な活動主体の参加促進

かながわボランティアセンターでは、セルフヘルプグループ活動に関する相談や学習・交流の機会を提供するとともに、グループ自らの提案に基づく協働事業や、「セルフヘルプ活動コーナー」の運営を通じ、引き続きセルフヘルプ活動の促進を図ります。また、この三年間の実績と課題を踏まえ、「セルフヘルプ支援事業推進方針」の見直しを行うとともに、当事者自らの問題解決能力向上に向けた支援のあり方についても、新たに委員会を設置して検討します。

また、思春期特有の課題を抱える青少年支援とネットワーク構築に向けた思春期サポートネットワーク事業や、新たな地域福祉の担い手として注目されるコミュニティビジネスの普及に向けた調査等を実施するとともに、市町村社協ボランティアセンターの専門性強化のための支援を行います。

かながわともしびセンターでは、「ともに生きる福祉社会づくり」を目指す「ともしび運動」の理念に基づき、ともしびポスター・絵本コンテストや福祉作文コンクールを開催等により、小・中・高校生の福祉意識の醸成を図るとともに、「ともしび基金」を活用し

平成17年度新規・重点事業（一部抜粋）

（単位：千円）

思春期サポートネットワーク事業	1,407
当事者支援推進事業	1,974
コミュニティビジネス普及事業	1,254
市町村ボランティアセンター専門性強化事業	1,429
ともしびふれあい調査	1,232
障害者週間記念事業	635
障害者等へのIT普及の推進事業	3,701
地域づくり推進事業	2,443
PT、OTスキルアップ研修事業	400
福祉人材確保促進特別推進事業	2,955

たボランティア等の市民活動への支援を行います。

障害者の社会参加と高齢者の生きがいづくりの促進

また、障害者の社会参加促進に向けて、障害者の現状と課題を把握する「ともしびふれあい調査」を実施するとともに、就労支援の講演会や、障害者週間記念事業の開催、就労の場としての「ともしびショップ」設置支援等を行います。

さらに、障害者や身体機能の衰えた高齢者等に対し、ITを活用した社会参加を促進するため、「障害者ITサロン」の運営及びパソコンボランティア等への研修会の開催、IT普及促進のための啓発などの

取り組みを充実させていきます。

かながわ長寿社会開発センターでは、活力ある長寿社会の実現に向け、様々な活動を実施します（事業の詳細は本紙七面に掲載）。

市町村社協活動への総合的な支援

市町村社協への支援を通して、日常生活圏域における生活課題の解決を図ります。ふれあいのまちづくり事業支援事業では、市町村社協機能を生かした在宅福祉サービスの開発や取り組みを支援します。また、市町村社協の新たな活動指針の検討や、「地域福祉活動計画」の策定及び進行管理への支援を行います。

さらに地域づくり推進事業として、外国籍県民との共生に向けた「多文化共生の地域づくり」の検討、住民活動の推進・調整役である、「地域福祉コーディネーター」の役割を明確化するための研究会等を開催します。

これら取り組みの基盤となる市町村社協の運営体制強化に向けて、「社協組織運営強化支援委員会」で検討するとともに、市町村社協役員を対象とした階層別・課題別の研修を新たに実施します。併せて、市町村合併にかかる社会の支援やブロック別連絡協議会の開催等、市町村域を越えた広

域的な支援を引き続き行います。

権利擁護の推進

かながわ権利擁護相談センター（通称・あしす）では、引き続き権利擁護相談及び「かながわ福祉サービス運営適正化委員会」による福祉サービス苦情解決事業の充実に取り組みます。

地域福祉権利擁護事業については、事業委託先である市町村社協への個別支援を強化するとともに、事業の適切な運営に向け、新たに「地域福祉権利擁護事業リスクマネジメントマニュアル」を発行します。さらに、かながわ福祉サービス運営適正化委員会では、市町村社協や実施主体である本会に対し、必要な調査・助言等を行う運営監視事業を充実させていきます。

自立した生活を支えるために

バリアフリーの普及に向け、福祉用具・住宅改造についての専門的指導・助言を行うとともに、福祉用具等に関する各種セミナーを開催します。本年度は、新たにOT・PTを対象に「OT・PTスキルアップ研修」を実施します。経済的自立に向けた支援では、生活福祉資金、離職者支援資金、長期生活支援資金等の各種貸付制度に基づく支援や、かながわ交通

遺児・子ども福祉基金に基づく激励事業を引き続き行います（被保護支援事業については、平成十六年度を持って事業廃止）。

福祉人材の確保と育成

福祉マンパワーのさらなる確保に向けて、福祉職場未体験者を対象に、福祉入門講座を開催します。また、ホームヘルパー二級資格取得者の就労促進を図るため、実践力養成を目的とした現場体験実習を内容とする実務体験講座を新たに実施します。

福祉従事者の研修関連事業では、新任及び中堅職員、指導的職員、経営者及び管理者といった、階層に応じた基礎的な研修を実施するとともに、施設の種別や従事者の専門性に応じた課題別・専門別の研修を実施していきます。

また、福祉現場での人材育成支援を目的とした研修受講履歴管理サポートシステム事業や、従事者等の自主的な研究活動を支援する福祉実践研究活動等支援事業を実施していきます。

なお、県等とともに、今後の福祉人材養成のあり方の検討にも着手します。

福祉サービスの質の向上に向けて

社会福祉法人や施設の運営に対

する透明性の確保と適切なサービス提供を支援するため、福祉サービスの自己評価活動の促進を図るとともに、高齢者・障害者入所施設、保育所及び認知症高齢者グループホームを対象とした第三者評価事業を実施し、福祉サービスの質の向上と利用者のサービス選択の支援を促進します。

福祉施設経営指導事業では、施設における労務、経理などの専門相談や、人事・労務担当者を対象とした人事労務管理セミナーを開催するとともに、公認会計士を派遣し、経理面を中心に相談助言を行う会計専門指導（自主監査）事業を実施します。

災害発生時における対応方針の検討

昨年、各地で相次いで発生した豪雨及び震災などの災害の教訓から、社協や施設等における災害発生時の対応及び連携のあり方等について検討を行います。併せて、災害発生時のボランティア活動のあり方についても検討を進めていきます。

次期県社協中期推進計画の策定

県域の地域福祉推進の中核として、平成十八年度を初年度とする五カ年の計画策定に取り組みます。

（企画課）

平成17年度総合資金収支予算書

（単位：千円）

会 計 単 位	本年度予算額	前年度予算額	増 減
一 般 会 計	10,228,992	8,539,748	1,689,244
公 益 事 業 特 別 会 計	99,047	99,563	△ 516
収益事業特別会計（事業収支）	34,991	36,430	△ 1,439
生活福祉資金特別会計	732,620	766,020	△ 33,400
県単生活福祉資金特別会計	20,254	23,460	△ 3,206
生活福祉資金貸付事務費特別会計	104,641	90,447	14,194
離職者支援資金特別会計	660,959	340,402	320,557
離職者支援資金貸付事務費特別会計	0	15,261	△ 15,261
合 計	11,881,504	9,911,331	1,970,173

神奈川県の福祉部と衛生部は「保健福祉部」に生まれ変わりました！

神奈川県では、少子・高齢社会において、子どもからお年寄りまで、障害のある方もない方も、県民誰もが住み慣れた地域や家庭で、健康で安心し、自立してくらしていけるよう、保健・医療・福祉サービスを総合的に提供できる体制を整備するため、本年3月まで設置されていた、「福祉部」と「衛生部」が再編し、「保健福祉部」として新たにスタートしました。

保健福祉部の3つの ねらいと主な取り組み

ねらい1 安心してらせる少子・高齢社会に向けた保健・医療・福祉の体制整備を行います

- ◇健康で生きいきとくらせるしくみづくり（県民の健康づくりや「がん対策」の一体的推進）
- ◇安心して子どもを生み育てることができるしくみづくり（子どもや家庭に関係する事業の一体的推進）
- ◇高齢者が安心してらせるしくみづくり（高齢者施策と介護保険制度の一体的推進）

ねらい2 時代の変化に的確に対応し新たな課題に取り組むための体制整備を行います

- ◇次世代を担う保健・医療・福祉人材の養成や育成のしくみづくり（福祉人材と保健・医療人材の一体的養成）
- ◇県民の安全、安心の確保に向けた機能強化（災害時の要援護者対策と災害時医療等の一体的推進）
- ◇新たに取り組みを求められている課題への対応（自閉症児者対策への新たな取り組み等）

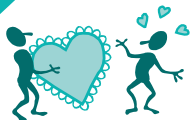
ねらい3 効率的で効果的な執行体制を整備し県民の皆さんへのサービスの向上をめざします

- ◇社会福祉事業者等に対する指導、監査機能の強化（社会福祉法人や介護保険事業者に対する監査・指導体制の一体化）

組織と主な業務

【課 名】		【主な業務】
保 健 福 祉 部	保健福祉総務課	保健福祉部の所管行政の企画・調整、防災・健康危機管理・災害時医療
	地域保健福祉課	地域保健・地域福祉に関する企画の推進、保健・医療・福祉人材の育成、保健福祉情報
	健康増進課	健康づくり、がん対策、母子保健・栄養改善・歯科保健・老人保健、疾病対策、感染症・結核・エイズ対策
	福祉監査指導課	社会福祉法人や介護保険・支援費事業者に対する監査・指導、団体の指導
	子ども家庭課	次世代育成支援、保育サービスの拡充、児童虐待の防止、ひとり親家庭対策、小児医療費助成
	障害福祉課	障害児者の自立支援、障害児者の地域生活・社会参加への支援、精神保健福祉
	高齢福祉課	高齢者施策の推進、介護保険制度の運営、高齢者施設の整備・運営指導、在宅高齢者福祉、介護予防・生きがい対策
	生活援護課	生活保護、遺族援護、ホームレス対策、原爆被爆者対策
	医療課	医療の安全確保、救急医療体制整備、保健医療計画、病院の開設許可・医療法人の認可、国民健康保険指導、老人医療施設指導
	生活衛生課	食品の安全性の確保、安全で良質な飲料水の確保、理・美容所など環境衛生施設の衛生の確保、動物愛護管理の推進
	薬務課	医薬品の適正使用と献血の推進、医薬品等の安全性の確保と薬物乱用の防止、薬局・医薬品に関する許可

※県立病院課は、新たに設置された「病院企業庁」に移行



平成17年度「かながわ福祉人材研修センター」研修事業一覧

	研 修 名	開催時期 (月)	階 層 別				職 種 別			受講料
			新任	中堅	幹部	施設長 経営者	介護職	相談職 指導員	社協	
階 層 別 研 修	新任施設等職員研修Ⅰ「基礎」	6	♪				♪	♪		有
	新任施設等職員研修Ⅱ「概論」	7	♪				♪	♪		有
	新任施設等職員研修Ⅲ「各論」	8	♪				♪	♪		有
	新任施設等職員研修Ⅳ「フォローアップ」	2	♪				♪	♪		有
	新任施設等職員研修「特別研修」	未定	♪				♪	♪		有
	中堅職員研修Ⅰ	6		♪			♪	♪		有
	中堅職員研修Ⅱ	10		♪			♪	♪		有
	法人施設マネジメント研修Ⅰ	8～12				♪				有
	法人施設マネジメント研修Ⅱ	8～12				♪				有
専 門 研 修	スーパーバイザー育成研修	9～11			♪		♪	♪	♪	有
	職場内研修担当者研修	10～11			♪					有
	対人援助技術研修	未定		♪			♪	♪	♪	有
	サービス提供責任者育成研修	11～12			♪		♪			有
	救急法研修	未定	♪				♪	♪	♪	有
資 格 取 得 研 修	ホームヘルパー(訪問介護員)Ⅰ級課程養成研修【県指定】	7～3					♪			有
	難病患者等ヘルパー養成研修〈県委託〉	8					♪			無
介 護 支 援 専 門 員 研 修	介護支援専門員実務研修【県指定】	1～5								有
	介護支援専門員現任研修基礎Ⅱ〈県委託〉	9～2	♪	♪				♪		テキスト代のみ
	介護支援専門員現任研修「専門課程」〈県委託〉	9～2		♪	♪			♪		
準 備 講 習 会	介護支援専門員実務研修受講試験準備講習会	8～9					♪	♪	♪	有
	介護福祉士資格取得準備講習会	10～11					♪	♪	♪	有

【お問合せ】研修研究課 ☎045-311-1429・FAX045-313-0737

読者の声

ーフレッシュ！フレッシュ！ー

四月から福祉施設に転職する。初めての業界を前に、「フレッシュな初心」を確認しておこうと思った。他の人はどうか知らないが、私は、今までに初心をしつかり記憶してきたことがなかったからだ。

今までに経験してきた職業は、企業の営業だった。就職の際には、「やってみなければわからない」ということで、初心の確認を怠ってしまった。だから年月の経った今、一体どのようなことを目指していたのか、さっぱり覚えていない。

初心を覚えていないからといって、仕事ができないわけではなかったと思う。たくさんの方を学ば、精一杯頑張ってきたことができた。けれど、何を目指し、どこまで達成することができたのかなどを確認することはできない。これでは、フレッシュではなく、戻った時に気づくことができないし、戻ることでもない。

▶ 投稿をお寄せください ◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

では、転職先の福祉施設で何を目指していきたいか。

転職を考えたまっかけは、営業の接客にあった。私は、お客様と話をすることが大好きで、もっと楽しむことができればと思った。けれど、その相手とは、商売をしなければならなく、楽しんでいるだけではダメだった。

商売とは関係なく、相手を思いやり、自分が楽しむことで相手も楽しむことができるかもしれない。そんな仕事をしていきたいと思ったことが福祉業界に進んだきっかけだった。この思いこそ、私が福祉施設で目指していきたいことかもしれない。

皆が一緒に楽しむことができる、楽しい福祉を実現すること。今の「フレッシュな初心」をしつかり覚えていようと思う。

(とかげ)

県社協のひろば

商品力を高めてイメージ戦略

三月十四日、社会就労センター協議会総会。昼下がりの会議室に、研究会メンバー・オブザーバー十名の顔がそろい、一年半に渡る研究成果が報告されました。

二年前の夏、協議会では中堅職員育成の一環として、職員が自ら考えたテーマで研究し、自信を高めるとともに、成果を施設での利用者支援に還元することを目的として、研究会の開催を呼びかけました。応募した職員は、仕事上の悩みや疑問、夢を持ち寄り、自ら「販路拡大」と「新規自主製品の開発」をテーマに掲げて、研究会をスタートしました。

授産施設の製品は、「安い」、「稚拙」、「安易な発想」などのイメージを持たれており、職員も利用者も「福祉だから」と甘えてきたのが現状です。しかし、「かわいそう」、「お付合い」と買っていただけで、今日の市場では、ますます製品のイメージは「福祉的」になってしまっています。

今回の研究報告では、高品質、ブランド化を心がけ、付加価値の高い製品を相応な価格で販売する



消費者ニーズを徹底研究して開発された商品
(ハマ焼きマグカップ〈左〉・梅干し〈右〉)

ことに、いかに取り組んできたかを中心に発表がなされました。

会員のネットワークをどう生かしていくのか、製品のコンセプトは見直さなくて良いのかなど、本年三月の研究会終了後も、メンバーで自主的に検討を進めていく予定です。また、研究会の成果が評価され、四月以降、新たな研究会を発足することも決まりました。

小さな芽だった初めての試み。今、次の芽を着実に育てようとしています。

※商品のお問合せは ☎045-311-1424 まで
(社会福祉事業課)

「自閉症」を正しく理解する

民生委員児童委員分野別研修会を、三月十四日に開催しました。この研修会は分野を限定し、その中で必要とされている事柄をテーマに行うもので、今回は、グループワーク形式などを取り入れながら、「自閉症」の正しい理解を深めていきました。

前半は、よこはま・自閉症支援室室長の関水さんより、自閉症の定義を中心にお話いただきました。関水さんは、「自閉症は生まれ持った『障害』です。『親の関わりが希薄だったため』とか『殻に閉じこもっている状態』、など、誤った認識をしている人が非常に多い。まず自閉症児者の行動を知り、その状況にあった援助が必要」と、正しい理解に立つた支援の必要性を強調されました。

後半は自閉症である息子さんをもつ、横浜やまびこ会会員の望月節子さんより、「差別のない社会に送り出したい」という強い信念のもと、数々のご苦勞の中で周囲に理解を得

られるよう努めてこられた様子を、温かな笑顔と共にお話いただきました。

最後にこれらの話を踏まえ、自閉症児者との関わり方について、設題と設問を例示しグループワークを行いました。日頃、私たちが何気なく伝えようとする内容や行為が自閉症児者には理解しにくいことや、目に見えない障害ゆえの支援の難しさを再認識することができた好機になりました。またグループワーク形式が、異なる地域の情報交流としても有効であることが、参加者の声からも強く感じた研修会になりました。



日頃の民生委員活動に役立つ内容に熱心に聞いている参加者の皆さん

(生活支援担当)



明るく活力ある長寿社会の実現に向けて

～平成17年度事業のご紹介～

間もなく定年を迎える『団塊の世代』を見据え、①活動への参加のきっかけづくりへの支援、②活動の継続・活発化に向けた支援、③高齢者の社会貢献活動の推進の重点課題を設定し、本県の特徴である都市型高齢社会に相応しい特性を生かした健康生きがいがづくりへの支援を、6つの新規事業を加えた事業展開で推進します。

シニアの仲間づくりを支援します

シニアの仲間づくり活動の広がり促進するため、「仲間づくりフォーラム」の開催や、高齢者サークルを通じた「地域活動参加マニュアル」を作成し、サラリーマンシニアの退職後の生きがいがづくりや活動への参加のきっかけとなる情報の提供を行っていきます。

また、「シニアグループのネットワーク支援」を行い、定例会の開催など活動を活発に続けるための学習や、相互の情報交換の場を設けるほかに、機関誌を発行し広く情報提供を行い、シニアグループを支援します。

等を発揮し、社会的役割を果たせる仕組みづくりに取り組んでいきます。

ご紹介した事業のほかにも、別表の事業も含め、高齢者の健康生きがいがづくり、仲間づくりを、関係機関・団体との協働・連携により事業展開を図ります。

いきいきシニア
を応援します！



活動の継続・活発化に向けた支援をします

高齢者のスポーツを通じた生きがいがづくりを支援することを目的に、「ゆめかながわスポーツ健康シニアフェスタ（仮称）」を開催します。

また、高齢者の文化活動の支援と、県民の高齢者福祉に対する理解を深めてもらうことを目的に、「第1回かながわシニア短歌大会（仮称）」を実施します。

高齢者の社会貢献活動を推進します

高齢者の地域活動、社会貢献活動に対するニーズを踏まえ、高齢者の持つ経験・知識・技術

活動への参加のきっかけづくりへの支援

- ・仲間づくりアドバイザーによる高齢者サークルの支援
- ・高齢者サークル活動に関する情報の収集・提供
- ・高齢者向けインターネットパソコン講習会の開催
- ・仲間づくりフォーラムの開催

活動の継続・活発化に向けた支援

- ・「第4回かながわシルバー美術展」の開催
- ・「第18回全国健康福祉祭ふくおか大会」への選手団の派遣

明るい長寿社会づくり推進機構の運営

センターからのお知らせ

『シニア情報特派員』募集

当センターホームページで、身近な地域の情報を発信していただける「シニア情報特派員」を募集します。おすすめのイベントや四季の便りなど、シニアのためのお役立ち情報を紹介していきます。ぜひ皆さんご応募ください。

投稿内容

①おすすめイベント情報、②おすすめグループ情報、③おじいちゃんおばあちゃんの知恵袋（生活に役立つ雑学等）、④私の日頃の活動をご紹介（趣味や得意技等）、⑤私の発見（四季便り等）

応募資格

○十七年四月一日現在六十歳以上で県内在住の方

○ホームページの閲覧、電子メールの送受信が日常的に可能である方（連絡用のメールアドレスをお持ちの方）

○電子メールで右記の情報を当センター宛に提供できる方

応募方法

随時電子メールで受付しています。詳細は当センターまでお問い合わせください。

このページに関するお問い合わせ
かながわ長寿社会開発センター
TEL 045-311-8734
FAX 045-312-6302
URL <http://www.nenin.or.jp/kanagawa>



私のおすすめ1冊

「けんかを忘れた子どもたち」 平井信義 著

町田福祉専門学校
非常勤講師 田口久美子

最近、世間を震撼させるような子どもの事件が続いています。子どもが子どもや親を殺すなど、悲しいことばかりです。今、大人たちは真剣に子どもや子育てのことを考える時期なのではないでしょうか。

今の「よい子」は、本当に「よい子」なのでしょうか。本書は事例を通しその危険性を述べるとともに、本当の「よい子」を育てていくためのヒントをたくさん示してくれています。子育てだけでなく、今を生きる大人や自分の姿にハッとさせられたり、反省させられたりします。

子育てと自分の生き方を考えるため、お母さんや保育関係者にぜひお勧めの一冊です。



1992年刊、PHP出版
現在販売されておりません
(福祉資料室で閲覧・貸出可)

- ★ケース研究101の事例／福祉現場からの声 (前田崇博・吉井珠代、久美出版)
- ★先進事例に学ぶ介護事業の経営改革術 (「ミス・コミュニケーション」編集部、ヒューマン・ヘルスケア・システム)
- ★平成16年度海外研修報告書集(第32回) (財中央競馬馬主社会福祉財団)
- ★相談援助職のためのケースマネジメント入門 (バーバラ・J・ホルト、白澤政和、中央法規)

★**読んでみよう!** ★ソーシャルワークにおけるSSTの方法 (北川清一他編、福島喜代子、相川書房)

障害者等の社会との関係づくりを援助する方々にとって、必要な技術と手順をまとめ、演習の進め方を分かりやすくまとめた一冊。

資料

★**価値あり!** ★和歌山県民福祉意識調査報告書 (和歌山県社協)

社協活動を進めていくうえで、県民が福祉についてどのような関心を持ち、期待をしているのかを把握し、より良い社協活動を行うための基礎資料として実施した意識調査報告書。

- ★高齢者福祉施設におけるサービスマナ―実践ワークブック (東京都社協老人福祉部会)
- ★施設解体宣言から福祉改革へ―障害をもつ人への支援も介護保険で(田島良昭、ぶどう社)
- ★発達障害白書2005 (日本知的障害福祉連盟、日本文化科学社)
- ★全国知的障害関係施設名簿2004・2005 (財日本知的障害者福祉協会)

「福祉資料室」をご利用ください!

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください!～

- ★神奈川の障害児教育資料／平成16年度(神奈川県教育委員会)
- ★釜山訪問記録集(かわさきのハルモニ、ハラボジ釜山訪問団他)
- ★平成16年度社会福祉施設の人材確保に関する需要調査報告書(本会)
- ★ヤングボランティアスクール2004報告書(相模原市社協)
- ★第4回ホームヘルパー全国交流集会「報告集」(ホームヘルパー全国連絡会)
- ★平成16年版介護労働者の働く意識と実態(財介護労働安定センター)
- ★障害者のグループホームスタッフハンドブック(全国グループホームスタッフ・ネットワーク)
- ★城山町障害者福祉計画(城山町民生環境部福祉推進課)
- ★都道府県、主要市におけるNPOとの協働環境に関する調査報告書(「HOE」人と組織と地球のための国際研究所)



「けあコミキッズ」のホームページをご紹介します

(株)東芝社会貢献室が運営する、子どもたちに「介護」を楽しく、分かりやすく伝えるサイト。老人ホームの訪問の仕方や心構えが学べる「老人ホームへ行こう!」や、紙芝居を使った介護知識の紹介、高齢者の目や耳の状態を体験できるコーナーなどもあります。



<http://c-kids.toshiba.co.jp/care/kids/>

役員会の動き

- ◇理事会 3月22日・①理事の推薦、②監事の推薦、③評議員の選任、④本会職員旅費規程の一部を改正する規程(案)、⑤本会個人情報保護規程の制定、⑥本会事務局職員の給料月額の特例に関する規程の一部を改正する規程(案)、⑦16年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)、⑧17年度本会会費、⑨17年度本会事業計画並びに収入支出予算(案)について
- ◇評議員会 3月30日・①理事の選任、②監事の選任、③17年度本会会費、④17年度本会事業計画並びに収入支出予算(案)について

第25回身体障害者協力登山会

- ◇開催日 5月29日(日)
- ◇場所 山梨県「平尾山」
- ◇募集 ①車いすを利用されない身体障害者の方50人、②支援ボランティア(中学生以上) 250人
- ◇参加費 ①無料、②一般6千500円、学生3千円(往復バス料金、交通費全般、保険代等を含む)
- ◇問合せ 山岳集団ベルククラブ
☎0465-2310416 (18時以降)
FAX 0465-2316290

第3回関東デイスサービスセンター会議

◇内容 将来地域福祉の拠点として重要な役割を担うであろうデイスサービス事業の担うべき役割と今後のあるべき方向を

議論する(基調講演、分野別・課題別分科会等)

- ◇対象 障害児者デイスサービスセンターの従事者(150人)
- ◇日時 7月23日(土)～24日(日)
- ◇会場 県社会福祉会館
- ◇参加費 2千円(資料、初日昼食代金)
- ◇問合せ もやい身体障害者デイスサービスセンター(担当:植草)
☎0467-2312311
FAX 0467-2312228

寄付金品ありがとうございました

一般寄付金 マ青年フェスタ実行委員会マ上智大学文

「第4回かながわ老人福祉研究大会」での発表者を募集します!

“ニーズを解決する職員やチームの取り組みこそが、高齢者福祉の専門性を高める”その取り組みを発表し、学びあい、新しい介護へ挑戦を続ける力を「かながわ」から創造したい…そんな願いからスタートした本大会。これまでの発表数は合計232題、昨年は学生からの発表もありました。

ぜひこの機会に、日ごろの研究成果を発表してみませんか?

- 【日 時】平成17年7月15日(金) 9時30分～16時50分
- 【会 場】パシフィコ横浜会議センター
- 【応募資格】高齢者福祉施設・介護保険事業所の従事者、福祉関係者、学生等
- 【発表時間】10分(質疑応答の時間は含まず) 質疑応答3分
- 【発表方法】口頭発表又はパワーポイント(他機材の使用不可)
- 【参加費】5,000円
- 【必 切 り】5月31日(火)
- 【本年度の発表テーマ】
 - ①『食』に関する取り組み
 - ②ケアの質の向上
 - ③認知症ケア
 - ④ターミナルケア・医療との連携
 - ⑤アクティビティ
 - ⑥相談援助・ケアプラン・自立支援
 - ⑦小規模多機能・地域密着
 - ⑧施設経営・業務改善と効率化
 - ⑨新型ユニットケア・グループケア
 - ⑩在宅支援・介護予防 など
- 【問 合 せ】社会福祉事業課 ☎045-311-1424 FAX045-312-6302

〈第3回大会・参加者の声〉

- 同じケアワーカーとして、皆さん頑張っていると大変励みになりました。是非多くの人々に広く参加して頂きたい。(職員)
- 課題に取り組み苦労しながら成果を挙げたことについて発表し、評価を受ける。職員の生き甲斐だと思います。(職員)
- どの発表も学ぶことが多く、今後の自分の就職先選択の良い参考となりました。(学生)

学部社会福祉学科マ田中良平マ脇隆志「交通遺児援護基金」マ横浜ビルシステム(株)マ神奈川県指定自動車教習所協会「神奈川県児童福祉文化体育協会」マ(財)神奈川県経営者福祉振興財団「ともしび基金」マ富士シティオ(株)FUJI松が丘店・塚原店マ木内宗雅代理人弁護士滝本太郎マスリーエフ日ノ出町駅前店マ済生会荏草病院マともしびシヨプライトセンター店マ神奈川県教職員組合マ(社)全日本不動産協会神奈川県本部マ(社)不動産保証協会神奈川県本部マ文月会マ吉田哲彦マ沼倉清治マ菅井良幸(計三・一七五・九六〇四)

【寄付物品】マ神奈川県定年問題研究会マ住友生命保険相互会社横浜南支社マ横浜市老人福祉センター泉寿荘内「泉寿通信友の会」マ横浜市総合保健医療センター内グループおおきな木売店木かげマ福田恵利マ内田徹マ高橋小清マ高橋弘子マ原田三郎(敬称略)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役会長 谷 口 榮
代表取締役社長 谷 口 嘉 弘

本 社 〒221 横浜府神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内 ☎(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

NTTファシリティーズ

福祉施設の企画・設計から
維持管理・リニューアルまで



～ 一級建築士事務所 ～
東京都港区芝浦3-4-1
0120-72-73-74

http://www.ntt-f.co.jp/syakaifukushi/default.shtml



学習障害等の子どものための学校

湘南ライナス学園（藤沢市）

広汎性発達障害（LD）学習障害、ADHD―注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群）等の方々（以下、学習障害等）を支援する、「発達障害者支援法」が今月施行されました。

こうした方々は、これまで制度の受け皿がなかったために、支援の手が差し伸べられにくい状況にありました。また、社会性やコミュニケーション、行動等に問題を抱えることも多いため、誤解や偏見の目にさらされることも少なくありませんでした。

今回は、そうした障害を持つ子どもたちの教育支援を行う、フリースクール・湘南ライナス学園（以下、学園）の吉崎芳郎理事長に活動をお伺いしながら、学習障害等の正しい理解に向けたメッセージをいただきました。

みんなちがってみんないい！

学園を運営するNPO法人ライナスの会は、昭和六十一年から、藤沢市で学習障害等や不登校の児童生徒への支援を行ってきました。

「知的な遅れがないのに、認知的に偏りがあるために集団生活が難しい子どもたちは、学校に上手く適応できず、不登校になってしまいうことも少なくありません。そうした子どもたちを持つ親からの、教育的支援を求める声を受け



3月に行われた学園主催の教育シンポジウムでは、子どもたちが日頃の成果をミュージカルで発表しました

活動を開始しました。学園では、内部スタッフの中心に、教育や心理、医療、福祉などの分野の専門家を置き、連携をとりながら、子どもの個性に応じた支援を行っています」と吉崎さん。

学習障害等が原因で、環境に馴

染めないために起る二次的な障害を防ぐために、学園では、環境づくりに特に気を配っています。

「子どもたちは自分の置かれている立場を理解していますので、非常に努力しています。しかし、社会の無理解からそれが報われず、傷つき、孤独な状況に置かれ、困難を伴った成長を余儀なくされています。その子のおこしている問題だけでなく、状態、特性を把握した上で支援すること、ありのままの姿でいいと認めてあげることが大切だと考えています。こうした『個』を尊重する支援がなされれば、障害の特性を個性の範疇として、十分伸ばすことが可能となるのです」と言葉を続けます。

今月には、これまでの学園の取り組みが認められ、小田原市に学習障害等の子どもの小・中・高一貫教育を行う、全国初の私立学校も開校し、生徒を募集しています。「子どもたちを支援していくためには、何よりも、周囲の方々の学習障害等に対する正しい理解と協力が不可欠です。是非、温かい目をもって支えて欲しい」と語ってくださいました。（企画課）

湘南ライナス学園

☎0466-12416613

URL <http://www.linus.or.jp/main.html>

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代)／FAX03(3449)1772

E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp

URL: www.yasue-sekkei.co.jp



入所更生施設S（厚木市）



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください